

山武農業事務所

普及だより

山武農業事務所

山武の



山武農林業振興普及協議会

〒283-0006 東金市東新宿1-11

☎ 0475-54-0226 FAX 52-7914

ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/>

山武の農業女子カUP 「アグリレディースセミナー in さんぶ」を開講



7月14日開講式(会場：山武市よもぎかん)

山武管内の女性農業者は基幹的農業従事者の約45%（農林水産省「農林業センサス平成22年」）を占め、農業の維持・発展に欠かすことのできない重要な担い手です。

そこで農業事務所では、農業を始めて間もない山武地域の女性農業者及び今後農業を志す女性を対象に、平成27年7月から「アグリレディース

セミナー in さんぶ」を開講しました。

このセミナーは、共同経営者として必要な知識・技術を習得し、積極的な経営参画を進めると共に、若手女性農業者のネットワークづくりを目的としています。

参加者は露地・施設野菜を中心に水稲、花き、酪農で現在25名です。7月の開講式では、お互いの営農状況や今後の目標について語り合いました。

機械操作に初チャレンジ！

セミナー生から、「機械を使えるようになりたい！」との強い要望があり、11月に「女性のための農業機械教室」を開催しました。機械メーカーの職員を講師に、土作り及び農作業機械の基礎を学び、トラクター、専用管理機等の実習を行いました。

セミナー生は、「トラクター



機械研修の様子
(会場：千葉県農業大学校油井農場)

は意外に操作が簡単で、管理機は難しい」「家の機械も動かしたい！」と、意識が高まり、経営参画への一歩となりました。

現在スマホ携帯アプリの「LINE」を積極的に活用した情報交換も行っています。農業女子のスキルアップを目指し、平成28年度まで開催する予定です。

参加希望の方は、山武農業事務所改良普及課まで御連絡下さい。

(0475-54-0226)

若手イチゴ生産者のスキルアップ!

今年度、山武管内の若手イチゴ生産者24名を対象に、イチゴの生産技術の向上及び仲間づくりを図るための研修会を開催しています。

第1回は農薬に関する研修会を開催しました。

研修会では、県農林総合研究センターの연구원から、イチゴにおけるハダニ類及びうどんこ病の効果的な防除方法について講義を受け、農薬の基礎知識を学びました。

その後、我が家の薬剤散布ローテーションを作ろう!をテーマに、グループワークを行い、イチゴ栽培の篤農家や農薬メーカーから貴重なアドバイスをいただきました。

参加者からは、「薬剤抵抗性が見つからないよう、農薬の系統を気にしながらローテーションを作成する事の難しさを実感した」等の意見が多くあり、また、グループで行う

ことで仲間意識が高まり、活発な意見交換となりました。

その後、山武管内の先進農家を訪問する育苗現地検査や、花芽検鏡会を開催しました。

また、1月には千葉市の先進的な観光イチゴ園への視察研修会を行います。

山武でイチゴを栽培している若手やこれからイチゴ栽培を考えてる方、ぜひ参加を待ちしています!一緒に山武のいちごを盛り上げていきませんか?



グループワークでの様子(第1回研修会)



いちごの若手生産者応援します!



これからの東金イチゴを考える

東金市は歴史のあるイチゴの産地で、最盛期には1000戸を超えるイチゴ生産者がいました。しかし、高齢化により生産者数は減少傾向にあり、産地の面積も減少しています。

そこで、10月にイチゴ産地の振興に向けて、農業事務所若手イチゴ生産者7名と市・JAの担当者で座談会を行いました。当日は農業事務所が産地の現状を説明し、その後「東金市とイチゴ経営の良いところ・悪いところ」をテーマとして生産者同士で意見を出し合いました。

その結果、東金市の立地の良さや直売のやりがい、観光イチゴ園の不足、市の知名度・PR不足について意見が出ました。

その意見を元に、産地としてできることとして、地域PRや新しい販路開拓、規模拡大など様々な提案があり、活発な座談会になりました。

今回の意見や提案を元に、東金市民へのPRを兼ねたオーナー制度の導入や、東金市のイチゴを紹介する市HPの更新、パンフレットの作成などを検討していく予定です。これから若手を中心に変化していく東金イチゴ。皆さんもイチゴを食べて、産地で頑張る生産者を応援して下さい!



生産者・関係機関との座談会

ネギの出荷調製作業の効率アップ!

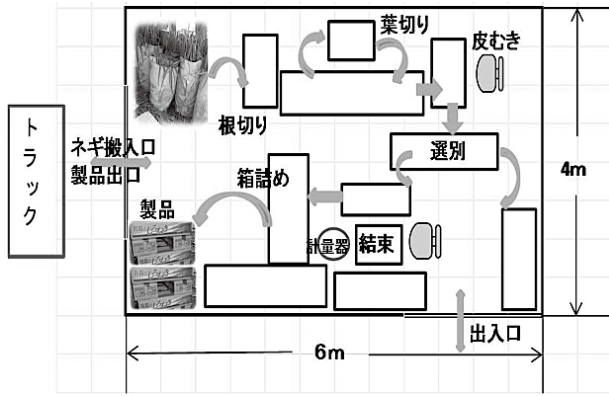


一般的に機械化すれば、多くの作業工程を省力化できます。しかし、ネギ栽培においては、全作業時間の5割を占める出荷調製作業は、機械化による省力化・効率化だけでは十分でなく、作業場全般の見直しが必要です。

そこで、労働生産性の向上を図るための対策の1つとして作業場の改善ポイントをご紹介します。

☆作業場の大きさ

機械の数や設備の大きさ、配置も十分考慮して、労働力に応じた適正な広さを確保します。



【例】作業従事者が3人の場合、9坪以上必要です。

☆作業動線

人の流れが交差しないように、生産物であるネギが一定方向に流れるように配置します。生産物の持ち運びの回数を減らし、距離を短くします。

☆作業台・椅子の高さ

作業台の高さは肘を曲げた時の肘の高さよりやや下にします。椅子の高さは、背筋が曲がらないようにし、足底が床につき、膝が直角に曲がる高さにします。

☆作業環境（照度、温度、換気、騒音）

選別作業の際は、明るさが足りない、目の疲労、肩こり等を助長し、ネギの病斑や汚れ等を見落とすことにもなります。そこで、スポット照明を設置しましょう。

作業場全体は300ルクス以上、出荷調製作業では500ルクス以上の照度が必要です。高齢者は3割程度、照度を上げましょう。

☆作業場の整理・整頓

作業の効率化を図るために5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）を実践しましょう。

技 術 情 報

昨年見られた玄米の品質低下の要因



昨年の稲作では、早生品種で着色粒（粒の全面または一部が着色している粒）による玄米の品質低下が多く発生しました。

昨年の籾を観察すると、割れ籾（写真1）が多く見られます。4月下旬～5月上旬植えの稲が穂ばらみ期を迎えた時期（7月上旬頃）の低温・日照不足により籾殻が十分に育たず、その後、玄米の大きさが決まる7月中旬～8月上旬頃に日照が多く登熟が急激に進み、千粒重が大きくなったため、割れ籾が多くなったと推

測されます。

割れ籾は、カスミカメムシ類による被害を受けやすくなり、また、割れ目から侵入したカビや細菌などの菌の影響による着色粒が発生しやすくなります。山武地域で行った調査でも、割れ籾を剥いてみると、菌による着色粒と思われる被害が多くありました。（写真2）

例年より割れ籾が多く含まれているため、自家採種した場合は塩水選により割れの少ない種子を選抜し、種子消毒を行う等の注意をして下さい。

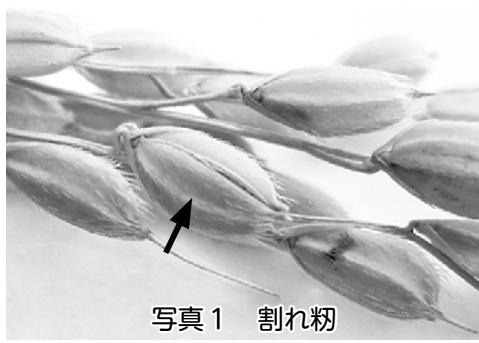


写真1 割れ籾

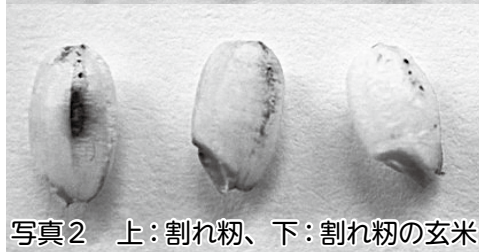


写真2 上：割れ籾、下：割れ籾の玄米

平成27年度認証 指導農業者・ 農業者紹介

本年度、新たに指導農業者1名、農業者4名が認証されましたので御紹介します。

指導農業者

○三橋 敏子氏



・山武市
・ネギ+
水稲

農業者

○細谷 虎太郎氏



・東金市
・水稲専作

○高橋 一裕氏



・山武市
・水稲+
ネギ+
施設花き

○加瀬 和昭氏



・横芝光町
・ネギ+
水稲

○加瀬 大敬氏



・横芝光町
・ネギ+
水稲

山武地域の担い手として、今後益々の御活躍が期待されます。

平成28年度 研修生募集!!

農業事務所では新規就農者等を対象としたセミナーを開催しています。

◎農業経営体育成セミナー

【対象】 新規に就農した概ね40歳までの青年農業者

【内容】 同世代のネットワーク作りと、農業の基礎的・専門的な知識を身に付けることを目的に、講義や現地視察等を月1回程度のペースで行います。

【研修期間】

平成28年5月から3年間

◎いきいき帰農者等研修

【対象】 新たに農業を始めようとする定年帰農者やUターン就農希望者

【内容】 農業技術に関する講義及び視察等

【研修期間】

平成28年6月～29年3月

どちらも参加費は原則無料です。詳細は山武農業事務所改良普及課へお問い合わせください。

山武地域の農業女性
この指とまれ!

『新たな

ネットワークの

メンバー募集』

農業経営の発展や地域の活性化を図る上で女性農業者の力は、欠かすことができません。

そこで、新たな女性ネットワークを発足して、

①経営のパートナーとして主体的に経営に参画し、所得の向上と経営の安定

②女性一人ひとりが輝く地域づくりと地域農業の振興を目指します。

主な活動として、農業経営や生産に係る研修会、世代を超えた女性農業者との交流及び情報交換会を予定しています。

この組織は、『千葉県女性農業者ネットワーク』に加入し、全国や千葉県からの多くの情報も得られます。あなたも積極的に参加してみませんか。

【問合せ先】

山武農業事務所
(担当・竹内・佐野・堀)